



建学の精神

畏神愛人

(神を畏れ人を愛する)

聖愛高校の教育

たまもの
一人ひとりが与えられた賜物を輝かせるために

あなたがたは地の塩、世の光である

聖愛は、「畏神愛人」(神を畏れ人を愛する)を建学の精神としています。学校生活の毎日は、礼拝によって始まり、聖書の授業や様々な宗教行事を通してその精神について学びます。

聖書には「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉がありますが、隣人とは誰のことでしょう？聖書の隣人とは、あなたが生きていく中で出会った人のことです。これは、好き嫌いや損得に関係のないものです。

聖愛は、人々の生命を大切にできるひとり一人を育てたいという願いを、3つの主題聖句「正義・愛・献身」の中に求め続けています。聖愛での学びや出会いは、これから的人生における様々な困難に直面したときにも未来を切りひらく「生きる力」になるはずです。様々な情報が氾濫し、価値が多様化する現代社会。命の大切さや「いかに生きるべきか」を忘れるほど混乱している今だからこそ、聖書の言葉に触れることが大切なのです。

私たちちは、聖愛の入学試験を経て入学してくる皆さんを心から歓迎します。そして、聖愛中学校から内部進学した生徒と合流し、共に学び、互いに刺激を与え合いながら、新しい聖愛高校の歴史を築いてくれることを期待しています。



沿革と歴史

弘前学院は、青森県における最初の女子普通教育学校として、本多庸一によって創立されました。本多は、津軽藩弘前市出身のキリスト者であり、青山学院 2 代目院長としてまたメソジスト教会初代監督として知られ、新島襄や内村鑑三、新渡戸稻造らと並ぶ、日本におけるキリスト教主義教育の先駆者でした。弘前学院聖愛は、キリストの教えに基づく教育をこれからも伝え続けます。